

毎日の整氷工程

①フェンスについた水を専用の道具で取り除く。これでフェンスの水だれを防ぐ。



②整氷車で削った後、リンク各所にある30箇所程度のポイントに穴を開け、ノギスで1/10mm単位の氷厚測定をする。



③リンクが平らになるように経験と感覚から、高低差をなくすように手で散水する。



リンク作りは根気のいる作業で、きちんとした氷のためには時間と気温と水温の細かな管理が必要です。急に冷やすとひびが入るし、綺麗な氷にならない。手で何度も水を撒き、2週間以上かけてやっと氷厚45mmのリンクになるんです。一度作ると、今度は毎日のリンク維持に繊細な作業が続きます。整氷車とカッティングマシンで傷のないところまで水

を削り、毎日1/10mmまで計測して平らになるよう丁寧に手で散水します。また、イーグルスのホームリンクということもあって、ホッケーの特徴であるフェンスを使ったプレーに対応するリンクを心がけています。フェンスに水がかからないように、フェンスについた水や汚れはこまめに取り除く。そうすることで、フェンス際のパックがでこぼこで浮

1個ずつ達成感を味わってもらいたい

こん たかゆき 46歳
釧路工業高校卒業後、王子製紙アイスホッケー部入部。自身の選手活動を終えた後は、指導者として15年以上子どもたちの育成に携わる。



苦小牧はアイスホッケーが盛んなまちと言われながらも、少子化などが原因で競技人口が減ってきています。どうやって子どもたちにホッケーを広めていけばいいのだろう。その気持ちで指導を15年以上続けてきました。エンジョイスクールでは、幼稚園や小

学校低学年の初心者向けにホッケー教室を開催しています。特徴は、防具や靴を持っていない初心者の子どもたちでもホッケーに親しんでもらえるよう、無料で道具一式を貸し出しているところです。幼い時は、自分のやりたいスポーツが何かわからないですね。やってみて初め

てわかることが多いと思います。そんなときに、金銭的負担が少なくなるようなしかけづくりを考えました。また、クラスも全員初心者にして、同じレベルからのスタートにすることで、一緒に楽しめるような工夫をしました。子どもって、滑れる、ブレーキができる、ターンやカッティングができるなど、ちよつとずつ前進することで、とっても喜ぶんです。そんなときは、たくさん褒めて、1個ずつの達成感を味わってもらって、ホッケーの魅力に気付いてもらいた



初心者から始めた子どもたちも、すぐに上達。

いたり、スピードが落ちたりしない。綺麗なリンクが選手のプレーの力になればと思います。整氷はきつい仕事だけど、スポーツの

フィールドを創るってなかなか出来ないやりがいのあることだと思います。手をかけて喜ばれるなら、これからも手をかけて氷をつくっていききたいと思っています。

これからも知恵を絞ってホッケーをする子どもたちの育成に努めたいと思います。エンジョイスクールで滑走法を教える今コーナー。エンジョイスクールは毎年広報とまこまい9月号で募集。詳細はスポーツ課まで ☎34-9601



エンジョイスクールで滑走法を教える今コーナー。エンジョイスクールは毎年広報とまこまい9月号で募集。詳細はスポーツ課まで ☎34-9601

スポーツのフィールドを創るって

なかなか出来ないこと

たけかわ さとし 43歳
培った自身の経験と理論で、武川オリジナルとも言える日本一のリンクを白鳥・沼ノ端を目指す。

